

工学分野 女性活躍を

金城学院大でシンポ

「工学分野における女性活躍への期待」をテーマにしたシンポジウムが25日、名古屋守山区の金城学院大であった。2026年4月にデザイン工学部を新設する同大と日本工学アカデミー中部支部が共催。「自分が本当にやりたいことをやって」などと会場の女子学生らに呼びかけた。

(服部桃)

卒業生で名古屋大学院情報学研究科の浦田真由准教授が、情報学に関心を持ったきっかけなどを基調講演。幼少期からゲーム機に触れ、成長とともに携帯電話などの技術が発展してい

った時代の影響を受け、金城学院大の情報文化学科に進学したと語った。2005年の愛・地球博(愛知万博)では、課外活動としてチームで動画制作などに取り組み、「幅広く

自身の研究などについて話す浦田さん＝名古屋守山区の金城学院大で

学んだことが実践的な活動になった」と実感。さらに学びを深めようと名古屋大学院に進み、研究者になったという。

現在は、自治体や企業と連携して人工知能(AI)カメラなどの情報技術を実社会で活用する研究を進める。「これからは若い女性の参画によるイノベーション、実践研究がますます大事になる」と強調した。

パネル討論には、浦田准教授をはじめ企業や行政で活躍する5人のパネリストと同大、金城学院高校で学ぶ4人が参加。「女性は理系を選びにくいイメージがある」という生徒の言葉に、パネリストの一人は「女子は文系とすり込まれているかもしれないが、男女関係なく好きなことをやって」と激励。国の会議や企業の執行部に女性が少ない現状に対して「女性の比率を増やさないと成長できない」との意見が出た。会場には、約100人が訪れ、熱心に耳を傾けていた。

本当にやりたいことやって

